

令和 7 年度 学校経営計画表

1 学校の現況

学校番号	68	学校名	県立荃崎高等学校						課程	定時制	学校長名	吉田 真弘					
教頭名	野村 淳吾			菅原 薫							事務（室）長名	大崎 百恵					
教職員数	教諭	34	養護教諭	2	常勤講師	6	非常勤講師	12	実習教諭、実習講師、実習助手		1	事務職員	4	技術職員等	5	計	68
生徒数	小学科			1 年		2 年		3 年		4 年		合計		合計 クラス数			
	普通（午前）科			46		55		55		3		159		8			
	普通（午後）科			19		16		20		8		63		4			
	普通（夜間）科			5		3		2		1		11		4			

2 目指す学校像

社会人として求められる基礎学力及び基本的生活習慣の定着、自己の将来を見据えた職業観・勤労観に基づく進路実現を支援し、豊かな人間性を備えた社会人の育成に努める。

- | | |
|--------------------------|----------------------------|
| 1 生徒と教職員が共に学び、成長できる学校 | 2 生徒・保護者・教職員の信頼関係が構築された学校 |
| 3 懇切丁寧できめ細かな指導・援助を実践する学校 | 4 一人一人の個性に応じた多様な進路実現が図れる学校 |

3 三つの方針（スクール・ポリシー）

育成を目指す資質・能力に関する方針 （グラデュエーション・ポリシー）	・ 基本的な生活習慣を身に付けた人材 ・ 豊かな人間性を備えた人材 ・ 社会人としての教養と規範意識を身に付けた人材
教育課程の編成及び実施に関する方針	生徒一人一人の多様な学習ニーズに対応した学習活動と進路実現に必要な能力や態度を育成するキャリア教育

別紙様式 1 (高)

(カリキュラム・ポリシー)	・習熟度に応じた選択科目の設定（基礎・基本の定着を目指す科目、考察を深める科目） ・興味・関心に応じた選択科目の設定（活動的な科目） ・学んだことを発表したり、試したりする自己決定の場の設定（授業、学校行事など）
入学者の受入れに関する方針 (アドミッション・ポリシー)	・思いやりを持ち、自他を尊重して信頼を築こうとする生徒 ・基本的生活習慣を身に付け、健康的な生活を心がける生徒 ・学校や社会の規範を守って日常生活ができる生徒 ・意欲的・主体的に学習や行事に取り組める生徒 ・自己実現に向けて日々努力する生徒

4 現状分析と課題（数量的な分析を含む。）

項目	現状分析	課題
学習指導	・基礎的・基本的な学習内容が定着している生徒が多くはなく、生徒間の学力の差が大きいが、学び直したいという意欲をもつ生徒が増加している。 ・少人数指導、T T授業など一人一人の能力に応じた授業を実践したため、生徒はおおむね授業に満足している。 【授業満足度調査】（4段階）（昼間部） 知識・技能の向上 3.5 思考力・判断力・表現力等の向上 3.4	・「主体的・対話的で深い学び」の視点に立った授業改善 ・すべての生徒にとってわかりやすい見通しのもてる授業展開
キャリア教育・進路指導	・卒業生の進路は、大学・専門学校等の進学が約3割、就職・その他が約7割である。 ・特別な教育的支援を必要とする生徒について中学校からの引継ぎができるようになり、就労支援も含め、連携・協働した組織的対応ができるようになってきた。	・多様な進路希望に対応できるような体制の構築 ・キャリア・パスポートを活用した、見通しがもてるキャリア教育の充実

別紙様式 1 (高)

生徒支援	・相手の立場に立って考えたり、自分の感情を適切に表現したりするのが苦手な生徒に対して、個別支援を要することがある。 ・基本的な生活習慣が身に付いていない、規範意識に欠ける等の生徒は徐々に減りつつあり、落ち着いた学校生活を過ごせるようになってきた。	・生徒の発達や理解にあわせた支援体制の構築 ・教育相談の機能を生かした、豊かな人間関係づくりに対する支援
特別活動	・教師主導の活動が多いが、自主的に取り組む生徒は増加している。 ・活動を振り返り、新たな学習や生活への意欲につなげるための手立てを工夫する必要がある。	・主体的に活動できる学校行事や生徒会活動等の工夫改善 ・集団の一員としての意識や自己肯定感の向上に対する支援
働き方改革	・令和 6 年度の時間外在校時間は、月平均時間 13 時間 24 分、月平均 45 時間超過者割合は 4.4%、月平均 80 時間超過者割合は 2.1%であった。部活動での従事時間は少ないが、生徒や保護者対応・学校行事の準備などで超過勤務が増えてしまっている。	・基準を超える超過勤務の解消に向けた学校運営体制と業務改善の推進

5 中期的目標

1 一人一人の能力を伸ばす効果的な学習指導の実践と授業改善 2 学びの場としての環境づくりと豊かな心の育成 3 キャリア教育の充実 4 特別活動の充実と活性化 5 開かれた学校づくりの推進 6 「茨城県県立学校の教育職員の業務量の適切な管理に関する規則」に基づく働き方改革の推進
--

6 本年度の重点目標

重点項目	重点目標
1 基礎学力の定着と、主体的・対話的で深い学びを実現するための授業改善を推進する	ア 生徒の能力に応じた指導内容の精選、少人数授業やT T授業の実施、BYODによる端末機器の効果的な活用によって、「分かる授業」を展開し、基礎学力の定着を目指す。(授業満足度「知識・技能の向上」3.5以上) イ 授業の中で、自分の考えを述べたり書いたりする自己決定の場を積極的に提供することで、表現力の向上を図る。(授業満足度「思考力、判断力、表現力等の向上」3.5以上) ウ 教職員相互の授業参観を行い、学習指導の工夫・改善を図ることで、生徒の学習意欲を喚起し、見通しをもって主体的に学習に取り組めるようにする。(授業評価「Teaching」(適切な目標や課題の設定、教え方の工夫)、「Coaching」(適切なアドバイス) 3.5以上)
2 安全・安心に学べる環境づくりに取り組む	ア ユニバーサルデザインの考えを取り入れ、すべての生徒にとっても「分かる授業」を展開する。 イ スクールカウンセラー・キャンパスエイドの活用や、個別面談の充実を図ることで、豊かな人間関係づくりを支援し、安心して登校し学べる環境を醸成する。 ウ 通級指導の活用などにより、生徒の生活面や学習面での困難の軽減を図る。 エ 学校図書館の整備により、生徒が読書や学習で利用しやすい環境を整える。 オ 学校いじめ防止基本方針に基づき未然防止・早期発見・早期解消等の取組を行い、評価・改善する。
3 基本的な生活習慣の確立を図る	ア 生徒自ら服装・頭髪等の身だしなみや言動を正せるよう、登下校指導や日常の挨拶・声かけを推進する。 イ 家庭と連携・協働することで遅刻・早退・欠席を少なくし、欠課時数の増加による転退学者数が減少できるようにする。

別紙様式 1 (高)

4 多様性を認め、他者を尊重する態度を育成する	ア お互いを思いやり、尊重する態度を育成し、豊かな人間関係づくりを支援する。 イ いじめは、「人間として絶対に許されない」という意識を醸成し、いじめをしない態度や能力を身に付けるような働きかけを行う。
5 キャリア教育の充実を図る	ア 各年次段階に応じた進路ガイダンスや進路別見学会、ロングホームルーム等における進路情報の収集と提供により、進路意識の向上を図る。 イ 先を見通した綿密な面談により、生徒や保護者の進路希望を把握し、生徒の主体的な進路選択や進路実現を図る。
6 特別活動の活性化と部活動の充実を図る	ア 生徒が自主的、実践的に活動できる環境づくりに努めるとともに、活動を通して豊かな人間関係づくりや自主性や自発性の伸長を支援する。 イ 教職員や外部指導者等による支援体制を整備し、部活動の充実を図る。 ウ ホームルーム活動を中心に、キャリア・パスポートを活用して学びを振り返るとともに、将来への見通しを持てるようにする。
7 フレックススクールとしての特長を生かした教育活動の向上・推進を行う	ア 生徒も教職員も成長できる学校を目指し、「荃崎プロジェクト 2025」を計画・実行する。 イ フレックス制・単位制の特長を生かした教育活動により、「学びの質保証」を行う。 ウ 校内研修の充実と研修機会の有効活用によって、教職員としてのスキルアップを図り、生徒に還元する。
8 職場環境を改善し、働き方改革を推進する	ア 職員のウェルビーイング向上のため、超過勤務時間者の校務を見直す等、業務の平準化に努める。 イ ライフワークバランスを重視し、時差出勤制度等の各種制度の積極的な活用を図る。 ウ 業務の適正化や校務D X化、可視化を推進し、業務負担を軽減するよう努める。